

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第34号 平成26年11月14日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分



平成26年8月28日
夏季若手教員育成研修(2・3年次)

教師自身も「21世紀を切りひらく力」を

日野市教育委員会 教育部
教育指導担当参事 記野 邦彦



10月に入り、市内の小・中学校において研究奨励校の研究発表会を開催しています。2年以上の教育実践を通じた研究の成果を市内はもとより都内、他府県にも還元する発表会が行われております。多くの皆様の参観に感謝するとともに、研究発表会で得られたものを各学校の日々の教育実践に生かしてもらいたいと思っております。

日野市教育委員会では、今年度から5年間、「第2次日野市学校教育基本構想」に基づき、子供たちが、かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育む教育を進めます。そして、教職員や学校は、質の高い教育環境を整え、「次代をつくる特色ある学校づくり」に取り組みます。また、人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進していきます。

さて、子供たちが主体的に学び続けるための教育活動にICTを活用するのも、ユニバーサルデザインの環境や授業づくりを行っていくのも、一人一人の教師の力量によるのです。東北大学大学院教授 堀田 龍也先生は「教員がICTを操作できるだけでなく、その特性を理解し、授業での有効な活用を構想し実施できる『ICT活用指導力』が必要である。」「授業でICTを活用する目的は授業が改善されること、それによって児童生徒が各教科等の目標をよりよく理解し、各教科等の求める学力が身に付くことにある。」と述べられています。また、明星大学教授 小貫悟先生は、先日の研究発表会のご講演の中で「ユニバーサルデザインの授業実践において、焦点化を行い、共有化を図り、視覚化がうまくできた…しかし、授業が終わった時、子供たちがぐったりしているのでは、本末転倒である。」「ユニバーサルデザインの授業の最大のテーマは『統合』であり、授業において『本当に伝えたかったこと』が伝わることである。」という内容を話されました。「教師は最大の教育環境である」と言われるように、教師自身が人間性を磨き、各教科等の本当の学びのための指導力を常に向上し続けることが肝要であると思います。教師自身も高度な情報化やグローバル化、少子高齢化など急激な社会状況の変化の中を生き抜くために、「21世紀を切りひらく力」を身に付け、子供たちの先に立って導いていく必要があると思います。

教育センターでは、教員の経験年数や各主任等の職層に応じた研修等を通して、着実に上記のような力を身に付けさせていただいております。さらには、各学校の教育実践に対する指導・助言、支援を行っていただいております。今後、ひのっ子一人一人の確かな学力、豊かな人間性、体力の育成のために更なる貢献をお願いし、挨拶いたします。

I 調査研究部

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

子どもの目が輝く理科授業を目指して

「コア・サイエンス・ティチャーを活用した小学校理科実技研修会」（通称、「CST 講座」以下この名称で表記）をご存知ですか？ 日野市で月 1 回行われている理科の実技研修会です。

文部科学省は、平成 21 年度に小学校教員の理科における指導力向上を目指し「理数教育支援拠点におけるコア・サイエンス・ティチャー（CST）を活用した小学校教員の理科教育における指導力向上事業」を立ち上げました。東京都では、お茶の水女子大学で理科の授業や実験方法を指導する講師として CST 養成研修を平成 24 年度まで行っていました。



日野七小 旭が丘小 旭が丘小 平山小
葛貫教諭 遠藤教諭 酒井教諭 本地教諭

また、日野市では、平成 23 年度 9 月からは毎月一回の開催を目標に「CST 講座」を実施し、本年度の 11 月で通算 30 回目になります。

CST は夏季理科実技研修会の講師も務めてきました。「CST 講座」研修会には CST とともに教育センターの理科教育推進研究委員や元 CST 専属理科支援員の先生方も発足当時から参加をしています。

本研修会は直近の単元を取り上げ、教科書に載っている実験を実際に行い、教材や指導法について CST を中心に話し合い、参加者と一緒に授業づくりを考える研修です。また、昨年度より研修内容に取り上げた単元以外でも、理科の授業でお困りの点についての要望があれば、平行して研修を実施しています。今年度は CST 資格を持つ先生の昇任や異動で、日野市では 1 名になりましたが、小教研理科部などで活躍している 3 名の先生方に講師として加わっていただきました。

10 月 10 日（金）に行った、第 5 学年「物の溶け方」の研修会の一部を抜粋して紹介します。

5、物が水に溶ける量には限度があることを調べる実験		
水 50mL に溶ける食塩の量を調べる実験での教科書による【食塩の量り方】の違い		
量る方法	メリット	デメリット
食塩を 1g ずつ量って溶かす (A社の教科書)	・正確な溶解量に近い値が出る ・計量の技能が高まる	・実験時間がかかる ・班ごとの誤差が出やすい
食塩を 5g ずつ量って溶かす (B社の教科書)	・実験時間がかからない ・班ごとの誤差が少ない	・正確な溶解量は求められない
食塩を計量スプーンで量って溶かす (他の出版社の教科書)	・実験時間がかからない (ミョウバンと同時に可能)	・班ごとの誤差が出やすい ・実際に何g溶けたかの印象が弱くなる

＜時間の都合で、食塩をミョウバンにかえて実施しました。＞
この実験で大切なことは、水に何 g 溶けたかということではなく、
・溶ける量に限界があること
・物が変わると溶ける量が変わる
・温度を変えると溶ける量が変わることがある
の 3 点を学ぶ学習です。規則性や決まりを教える学習です。
(1) ミョウバンを溶かす実験（お初めの二つの方法で）
・来年度からの教科書に出ている 5g ずつ溶かす方法
・計量スプーンで量って溶かす方法 <以下省略>
(2) 実験結果の表しかた。（ミョウバンを例にして）…話し合いの仕方<以下省略>

この研修会についての案内は、毎回教育委員会より各校に出されています。

また、スクールオフィスの掲示板「日野の理科」でも同様の案内文を掲載しています。更に、研修会終了後には研修会の様子を掲示板に掲載しています。その時、可能な限り次回の予定も掲載しています。時間がある時に掲示板「日野の理科」をご覧ください。

研修会は平日の午後 3 時 30 分～4 時 45 分です。校務等で開始時刻に間に合わなくても参加は可能です。子どもたちが興味を持ち、目を輝かせて取り組む理科授業を目指して講師の先生方も教材や指導法、実験方法などを検討し、当日の研修に臨んでいますのでぜひご参加ください。

2 郷土教育推進の研究(郷土教育推進研究委員会)

ふるさと教育係

1 郷土教育の普及・啓発とフィールドワーク

身近な郷土への理解を深め、郷土の事例をもとに学習を進めることは学びをより確かなものとするばかりではなく郷土への愛着を育て、やがて積極的にまちづくりを進める子どもたちを育てることにつながります。例年実施しているフィールドワークでは、教師自身が直接、郷土の実態を目の当たりにすることで、児童への指導にもこの感動が生かされ有意義でした。今年度は、7月24日に「豊田地区の歴史・文化・自然を訪ねて」のテーマで、フィールドワークを実施し日野二小のランチルームをお借りして、事例発表・演習・まとめ等の研究会を実施しました。

2 豊田地区のフィールドワーク

(1) 豊田用水に沿って歩く

本市では利便性を高め、防災対策の向上につなげるために新たなまちづくりが進んでいます。特に豊田地域では現在「区画整理事業」が進み、昔の面影が急速に失われようとしています。左写真は、



豊田駅近くの戦没者慰霊の地蔵であり、その歴史やその存在すら忘れ去れようとしています。

こうした昔ながらの光景は、今回歩いた豊田用水に沿って残っており、耕地整理の記念碑や旧名主山口家の存在や今なお残る水田に昔の姿が偲べれます。さらに東に向い戸外にある大仏が目を引き善生寺、若宮八幡の鎮守の森を見ながら、室町時代の板碑が残る延命寺へ、隣接する日枝神社のクスの木は樹齢300年以上とされています。やがて、今年発掘調査が進み、5月24日に

一般公開された吹上遺跡です。この遺跡には、直径30mの周溝をもつ古墳や住居址が発掘され、古代においてもこの地域が重要な場所であったことがうかがわれます。

(2) 吹上遺跡

右下の写真は吹上遺跡発掘現場の写真です。この古墳は、6世紀前半のものであり、同じ場所に残る住居跡は弥生時代末から古墳時代前期(4世紀前半)と奈良時代から平安時代のもので、現地からはこれと併せ須恵器や土師器も多く発掘されており、これだけの規模の遺跡の発掘はこれが最後ではないかと考えられています。また、こうした遺跡が残っていたことに改めて驚かされます。



(3) 温故知新

日野にはまだ多くの田畑が存在します。その一方で、町の開発が進められており、平成25年度からは豊田地域の区画整理が進み、そのことにより旧名主家の板塀がなくなり、吹上遺跡の発掘にも結び付きました。私たちの生活は常に未来に向かっており、かつての歴史が失われる場面でその意味をしっかり受け止めていくことが大切です。こうした中で、日野を支えてきた多くの人たちの存在が明らかになり、私たちの郷土への愛着も深まっています。



3 ひのっ子教育21開発委員会研究

基礎調査研究係

ひのっ子教育21開発委員会では日野市内の小・中学校から、14名(小学校11名、中学校3名)の開発委員が集まり、理科における魅力ある授業づくりを進めています。講師の先生方の指導の下、日野市教育委員会が目指す「理科における魅力ある授業づくりプロジェクト」の実現に向けて、一年間、基礎調査研究を深めています。以下、実践報告を記載します。

研究テーマ

「主体的に課題を見つけ、観察・実験し、新たな見方・考え方を創り出す理科学習」

- 第1回 4月28日(月) 日野市立教育センター
・今年度の研究推進の方針説明
- 第2回 5月29日(金) 日野市立教育センター
・「魅力ある理科授業」について、各委員より授業での工夫について発表及び検討
・研究テーマ、研究授業について
- 第3回 6月27日(金) 日野市立教育センター
・研究テーマの内容検討 ・研究授業について、授業者決定及び内容検討
- 第4回 7月10日(木) 平山小学校
講演 「今後の理科教育に求められるもの」
講師 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 清原 洋一 先生
- 第5回 9月18日(木) 日野第七小学校
研究授業 小学6年「水溶液の性質」
授業者 日野第七小学校教諭
講師 東京大学大学院教育学研究科 特任教授 日置 光久先生
- 第6回 10月17日(金) 日野市立日野第四小学校
研究授業 小学4年「人の体のつくりと運動」
授業者 日野第四小学校教諭
講師 国立教育政策研究所 教育課程調査官 藤枝 秀樹 先生
- 第7回 11月13日(木) 日野第二中学校
研究授業 中学校1年「光と音」
授業者 日野第二中学校教諭
講師 東京大学大学院教育学研究科 特任教授 日置 光久先生

今後の予定としては、1月20日(火)日野市立平山小学校で、ひのっ子教育21開発委員会の研究授業と発表会があります。講師は東京大学大学院教育学研究科 特任教授 日置 光久先生です。

また、開発委員会は、理科の授業実践事例をまとめ、日野市立小・中学校の教員の皆様に研究の成果をお渡し、広めることを目指しています。



II 研修部

教職員研修係

教育センターは、日野市教育委員会学校課が計画した日野市立幼稚園、小・中学校教職員の研修事業を進める際に必要な業務を行っています。その主なものを紹介します。

(1) 若手教員育成研修(1・2・3年次)

若手教員育成研修(1・2年・3年次)の授業観察及び指導を行っています。1年次教員は、学習指導案が適切に作成されているか、授業が計画通り実施されているか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているか等の観点で授業を観察しています。指導員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら指導に当たっています。



2年次教員には、指導のねらいを明確にし、授業の流れを工夫した学習指導案を作成した上で授業に臨むようにしています。授業後には授業評価を行い、改善策を考えていけるように具体的に指導しています。3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うようにアドバイスをしています。

(2) 夏季全体研修会

7月23日、日野煉瓦ホール(大ホール)で、日野市教育委員会夏季教員研修の全体研修会が開かれました。第1部の演題は「日野市における特別支援教育の充実」で、今年度、日野市立小・中学校全校で日野スタンダード セカンドステージによる実践のさらなる充実を目指し、授業改善を図っている取り組みについて明星大学人文学部教授の小貫 悟先生から講演がありました。その後、ユニバーサルデザインにもとづく授業実践として「七生緑小学校」「三沢中学校」、リソースルームの指導実践として「日野第一中学校」の3校から実践報告がありました。第2部は「スマホとSNS時代での“情報モラルの力”」という演題で、熊本市立総合ビジネス専門学校 教頭 桑崎 剛先生より、子供たちのネット問題にどのように対応すべきか、ネット社会だからこそ大事なことはどのようなことか等についての講演がありました。

教育センターは、全体研修会の開催に向け、日野市教育委員会と協力して、立看板を準備、受付名簿を作成、当日の受付をして、参加者の状況把握等を行いました。

(3) 若手教員育成研修(2年次・3年次)

8月28日、日野第一中学校を会場にして、2年次の教員が午前の半日、3年次の教員が午後の半日と、半日単位で開催されました。2年次教員は7グループ、3年次教員は11グループに分かれ、それぞれ一学期に実践した事例を発表し、学習展開の方法や教材教具の工夫等についてグループ協議を行いました。センター所員は、午前・午後一日、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行いました。それぞれ課題をもって2学期に臨むように励ましました。



(4) 教育課題研修会

夏季休業中に実施された、人権教育、外国語活動、特別支援教育、理科実技、3年理科の昆虫、郷土教育、教育相談の各研修会の支援業務も教育センター研修部が行っています。各学校からの受講申し込みをまとめ、参加人数の把握や、受付名簿の作成、参加状況の把握等を行いました。

Ⅲ 相談部

学校生活相談係

－ 不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」－

学校生活相談係は、何らか（心理的・情緒的等）の要因や、様々な状況によって不登校や登校しぶりの子供達を適応指導教室「わかば教室」（以下「わかば教室」という。）で受け入れ、生活や学習の支援及び指導を行なっています。

児童・生徒の学校生活は、安全で、健康で、明るく落ち着いた雰囲気でも過ごし、一人一人が安心して意欲的に生活や学習に取り組めることが大切です。学校生活相談係は子供達が「わかば教室」での生活を通して、安心して日常の生活が出来るように支援を行うことだと考えています。

しかし、現在の学校生活における子供達の課題はさまざまです。その複雑な課題に対して、学校と連携し、また保護者・関係機関とも連携していくことが必要です。

心のケア・学力向上・体力増進・社会性の育成等を図るため、一人一人に対応したきめ細やかな支援を心掛けています。相談活動を充実させ、行事を行なう等、人間関係を深め、実践力を培い、児童・生徒の活力向上（心と身体のエネルギーを高める）を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

(1) 学校との連携

「わかば教室」では、市内各小・中学校と連携し、児童・生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、通室している子供が所属する学校の管理職や担任及びコーディネーターの先生との面談を実施し、その中で指導方法を検討したり、決めたり、改善したりしています。また年間1～2回、市内の全小・中学校を登校支援コーディネーターと訪問しています。

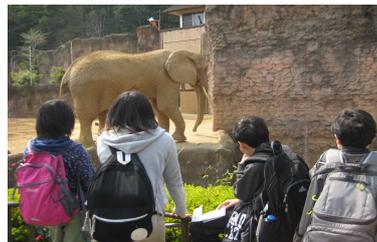
(2) 『わかば教室』の行事について

「わかば教室」では、子供達の社会性や集団適応能力の育成のために、学期ごとに様々な行事を行なっています。遠足・お茶会・図書館訪問・ボランティア活動・社会科見学・音楽会、更には誕生日会・収穫祭（調理実習）・スポーツ大会など、子供達の自主・自立・社会性を育むことを意識しながら計画し、実施しています。

誕生日会



多摩動物公園



(3) 適応指導教室「わかば教室」通級の状況

平成 25 年度	5 月 1 日	小学生	4 人	中学生	26 人	合計	30 人
	10 月 1 日	小学生	4 人	中学生	35 人	合計	39 人
	3 月 25 日	小学生	6 人	中学生	38 人	合計	44 人
平成 26 年度	5 月 1 日	小学生	7 人	中学生	20 人	合計	27 人
	10 月 1 日	小学生	10 人	中学生	24 人	合計	34 人

日野市にも不登校児童・生徒は、毎年出現しています。その中で「わかば教室」に通室し、心と身体のエネルギーを高め学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も元気に通学しています。学期・学年の変わり目は学校に復帰できる大きな機会です。小さな変容を大切に、生きる力を育み、学校復帰へとつながるよう保護者・学校や関係諸機関と連携を図り子供たちのために努力を続けています。

教育資料・広報係より

教育センター・Web サイトの紹介

教育センターでは、学校へ必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

1 センター調査研究事業の成果の紹介

当センターでは、日野市内小・中学校の教育の充実のために調査研究事業を推進していますが、その成果をwebサイト上の同サイト上のPDFファイルで見ることができます。

また、ひのっ子郷土教育研究（郷土教育推進研究委員会）で発行された「郷土日野指導事例」（第1～9集）、関連資料集も同様にPDFファイルで見ることができます。

2 市内小・中学校の校内研究紀要の概要の紹介

日野市内の公立小・中学校においては、教員の実践的な指導力を高めるために校内研究を進めていますが、当センターでは、各校の昨年度の成果を概要にして紹介しています。また、教員や教育研究者の実践的な研究に役立てるために「平成25・26年度 日野市教育委員会研究奨励校」については、各校の協力によりwebサイト上のPDFファイルにダウンロードによって提供しています。

<http://www.hino-tky.ed.jp/center/>



新しく購入した本の紹介

- | | | |
|------------------------|------------|---------|
| ・ほんもののエンカウンターで道徳授業中学校編 | 諸富祥彦著 | 明治図書出版 |
| ・学級づくりの3D理論 | 土作 彰著 | 明治図書出版 |
| ・聴く力伝える技術 | 田中圭子著 | 日本加除出版 |
| ・教師生活24時間 | 日本私学教育研究所著 | 日本教育新聞社 |
| ・教師が使えるカウンセリングテクニック80 | 諸富祥彦著 | 図書文化 |
| ・世界一易しい精神科の本 | 斎藤 環著 | 河出書房新社 |
| ・学校で使える5つのリラクゼーション技法 | 藤原忠雄著 | ほんの森出版 |
| ・よくわかるアサーション自分の気持ちの伝え方 | 平木典子著 | 主婦の友社 |

○また、12月頃には、学級経営に役立つ本を購入する予定です。

○教育センターには、27年度から使用する教科書があります。全ての出版社や全教科そろっています。

ぜひ、閲覧したい方がいましたら、教育センターの図書資料室にお立ち寄りください。

◎新しい本もセンター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出しいたします。電話、または校務支援メールでお申し込みください。交換便でお送りします。